

京の喫茶・カフェ巡り #5

国立京都国際会館や高級住宅地を擁する左京区岩倉地区。この地で“お茶をするなら”“食事に行こう”というとき、選ばれてきたのが「コーヒー レストラン ドルフ」です。半世紀近く愛され、今も注目され続けています。



「ハンバーグエビフライランチ」(1,500円)は人気No.1のランチ。肉感たっぷりのハンバーグに特製デミグラスソースが合う。

「コーヒー レストラン ドルフ」(以下、ドルフ)の木製の扉の向こうには、ドイツの別荘をイメージして創られた空間が広がります。南側のテラス席から同店のシンボルの櫓を見ながらティータイムを楽しむもよし、アンティーク家具などが並び、木の温もりを感じるフロアでコーヒーを味わうもよし。暖炉もあるため、冬には薪が燃える音を聞くこともできます。

そんな非日常的な空間に惹かれ、地域の人々をはじめ、多くのお客様がゆったりとした時間を過ごしています。平日の昼に列ができることも珍しくありませんが、夜はスムーズに来店できそうです。

同店は、不動産業や建築設計などを通して、岩倉地区における家づくりのことでサポートする株式会社ドルフホームズの「コーヒー レストラン」です。店名のドルフはドイツ語で“村”を意味します。

代表取締役は、創業者の子息で一級建築士の窪田健一さん。「子どもの頃からよく父に建築現場に連れて行ってもらいました」と振り返ります。

創業者はかつて老舗デパートに勤務し、婦人服の販売などを担っていたそうです。

高度経済成長期、そして安定成長期に入中、不動産業の将来性を感じて起業しました。

現在「ドルフ」のある土地を取得したとき、改めて土地の良さに感じ入り、また岩倉地区の発展性を感じ取り、この土地は販売せず、自身で活用しようと考えました。それまで仕事で衣食住の“衣”と“住”に縁があった創業者は、残り一つ“食”にかかわる店舗の開業を決意します。

「父も建築が好きで、インテリアなどにも関心がありました。同

僚であった画家を海外まで訪ねて店づくりを相談し、雑貨なども集めたようで、そうして見極めたものを揃えてトータルプロデュースしたのがこのお店だと思います」。1979年、「ドルフ」がオープンしました。

窪田さんは総合建築会社や建築コンサルティング会社に勤務し、海外で仕事をすることもありましたが、ドルフを彷彿とさせたそうです。不動産業をメイン事業とする同社が建てたゆえ、“建物”が本物の別荘だと感じさせる存在感を放っています。

同店の自慢の一つは、水出しコーヒーです。時間をかけて水で抽出しているため、苦みが抑えられ、すっきりとした味わいになっています。ブレンドコーヒー、アイスコーヒーは650円(以下、価格は税込)。カップから溢れんばかりにホイップクリーム

をのせた「ドルフ式スペシャルコーヒー」は850円。

人気の高いデザートは、スコーンとフルーツサンドの両方を楽しめる「ハイティ」で、1,150円(11時からオーダーが可能)。「フルーツパフェ」は1,300円、「チョコレートパフェ」は1,100円。夏季には期間限定のフラッペがメニューに加わります。

また、食事メニューも充実しています。ランチタイムは11時～14時(日曜・祝日を除く)。人気は「ハンバーグエビフライランチ」(1,500円)で、「ビーフシチューランチ」(1,600円)も好評です。どちらもライス、サラダ付きで、ドリンク(ブレンド

コーヒーやブレンドティなど)が選べます。喫茶は終日提供されており、ディナーについては電話で予約することができます。

岩倉地区には「それこそ、より魅力的な“村”のようになってほしい」と願い、その貢献活動の一環として地域のマルシェにも参加。コーヒーとスコーンが好評を博しました。常に躍動感があり、新しいロゴマークも制作。この6月からそ



「ハイティ」(1,150円)。毎朝焼き上げるスコーンと、フルーツサンドの両方を贅沢に味わえる。ブレンドコーヒーなどドリンクとのセットも(1,500円)。

のロゴ入りのコーヒーカップが使われるようになりました。良き伝統を守りつつ、より洗練されたモダンな雰囲気をもとう「ドルフ」。これまでに増して上質な時を過ごせそうです。



コーヒー レストラン ドルフ

京都市左京区岩倉東五田町4

TEL 075-722-2367

URL <https://dorf-web.net/coffeerestaurantdorf/>

営業時間 8:30～20:00(ラストオーダー 19:00)

定休日 水曜日(年末年始・夏季休業)

大型駐車場完備

京都市営地下鉄「国際会館」駅より徒歩約4分

